



平和最終処分場浸出水(未処理水)の公共用水域への排出について

平和最終処分場において、令和5年6月2日豪雨及び8日から9日にかけての大雨により、埋立処分場地内の水位が上昇した結果、最終処分場からの浸出水が排水処理工程を経ずに、オーバーフロー用経路をたどって公共用水域に排出されていたことが判明しました。

地元住民及び関係者の皆様にはご心配をおかけしますが、今後はこのような事態が発生しないよう再発防止に努めてまいります。

1 概要

- ・ 6月2日豪雨（降水量391mm）、6月8日から9日にかけての大雨（降水量80.5mm）により、埋立処分場地内の水位が上昇
- ・ 浸出水の処理が追い付かず、埋立地の浸出水集水ピットからオーバーフローした未処理水が公共用水域へ排出
- ・ 6月16日時点で、未処理水のオーバーフローがないことを確認済

2 健康への影響

浸出水の公共用水域への放流先（中渡谷川）において、6月12日に実施した水質検査結果では、地元自治会及び浜名漁業協同組合との公害防止協定値、及び「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に定められた基準値を下回っていました。

なお、令和4年8月に実施した浸出水（未処理水）の水質検査において、カドミウム等の有害物質は全て基準値未満であることを確認しています。

3 今後の対応

雨水の浸透を防ぐため、第2期埋立処分場の防水シートによる被覆や、調整槽内に大量に溜まっている浸出水の処理など応急対策及び中長期対策を検討し、速やかに対策を講じてまいります。

